

村岡川（宇田川）源流・石巻康敬の墓を訪れる 資料

2020年9月30日 前川

地下鉄立場駅—立場交差点庚申塔—特区農園—中田中央公園—特区農園—御霊神社—
中田町宮ノ前公園—石巻康敬の墓—中田寺—中田駅

立場交差点庚申塔

この庚申塔が最初に祀られた場所は、中田北一丁目1番9号辺りで、その頃の長後街道とかまくらみちの交差点でした。大正3年（1914）に新しい長後街道の開通に伴い、庚申塔も移されたが、その後、長後街道拡張等で奉斎場所が消滅し、また別の場所に移された。平成11年、立場交差点の完成を機に、現在の場所に祀られました。

明治8年建立の角柱の文字庚申塔で、正面に「庚申塔」、左面に「南 婦ち沢、北 八王子道」、右面に「東 戸塚・柏尾、西 大山・厚木道」と刻まれ、道標を兼ねている。



中田中央公園

平成13年5月に区内3ヶ所目の地区公園として開園。区内では初めての本格的な野球場とレストハウス・駐車場があるととても広い公園です。球場で凧揚げ大会、羽子板とこま回し競技会、芝生の外野を一般開放している。公園内には雑木林や小川もあり、ジョギングコースもある。富士山が良く見えるところもあるので、周辺を散歩するのもおすすめです。



土地改良事業完成記念碑 緑の大地

事業主体	横浜市泉区中田土地改良区
総面積	三十八クタール
設立認可	昭和三十九年七月二十八日

御霊神社

戸塚区・栄区・鎌倉市域の御霊神社と同じく鎌倉権五郎景政を祀った神社で、昔から「中田のごりょう様」と呼ばれていた。明治の廃仏毀釈前は宮司家の東端に実相院の不動堂や護摩堂があった。保安林に囲まれた石段下の弁天池は村岡川（宇田川）の源流です。池の前の庚申塔は、区内最古のもので、地域文化財に登録されています。鳥居の横に中田の子弟の教育に尽力された宮本湊先生の頌徳碑がある。

祭神は鎌倉権五郎景政と日本武尊の二柱で、旧鎌倉郡内に多くある御霊神社の一つです。拝殿右横の小さな瓦葺の建物は、昭和20年（1945）の終戦まで中和田小学校の奉安殿だったもの。右うしろに神楽殿がある。



寛文庚申塔

弁天池前の手水舎横に横浜市の指定有形文化財に指定された寛文6年（1666）建立の笠塔婆角柱型の庚申塔があります。庚申信仰は江戸時代に多くの庶民の信仰を集めました。この庚申塔は庚申信仰が青面金剛の信仰と結びつく以前の、比較的早い時期のもので、南無阿弥陀仏の六字名号が庚申信仰と結びついたことを、三猿の存在が示しています。



中田町宮ノ前公園

公園の南端、東中田小学校入口の信号柱の傍に2基の庚申塔がある。大きい方が青面金剛像で元禄15年（1702）2月、小さい方は文字塔で安政7年（1860）2月建立で、南ふじ沢道、北八王子道と刻まれて、道標も兼ねている。

石巻康敬の墓 横浜市地域史跡（平成6年11月1日登録）

江戸初期に中田村の領主になった石巻康敬の家は、戦国時代に小田原北条氏の評定衆や相模西部の郡代を勤めた家で、本国は愛知県姫街道沿いの石巻山を越える本坂峠を下った辺りです。康敬は中田の石巻館で23年間を過ごし村の発展に力を注ぎました。慶長18年（1613）10月1日80歳で逝去、持仏の観音堂（稲葉堂）の地であったこの地に眠っています。

石巻下野守康敬は小田原北条家の重臣で北条氏康、氏政、氏直の三代に仕えた後、徳川家の旗本に入り、中田村を知行し、慶長18年（1613）80歳で逝去しました。その地に七代の孫、康福が康敬の150回忌の法要（宝暦12年1762）に当って、撰文を岡井孝先に依頼して墓碑を建立しました。

平成7年3月 横浜市教育委員会



中田寺



江戸期に中田村の領主であった石巻康敬が開基となり、慶長17年（1612）に本誉良廓上人が創建した。本尊阿弥陀如来像を置く浄土宗の寺です。境内には石巻康敬の持仏堂であった十一面観音を置く稲葉堂や「南無阿弥陀仏」と刻まれた十七世住職香川法隆上人の頌徳碑、小山三郎兵衛の筆子塚や力士戸田川の墓があります。

力士戸田川の墓



戸田川鷲之助は享保20年（1735）に中田の小山家で生まれました。江戸角界の名門2代目玉垣の弟子として入門し、宝暦6年（1756）5月の上方番付で戸田川鷲之助の四股名で小結、翌年の京都興行では関脇に、やがて玉垣親方となり、角界第一人者が名乗る3代目雷権太夫を襲名、将軍家上覧相撲を実現させ、相撲の黄金時代を築いた人です。



（参照）

泉区散策ガイド 「水と緑と歴史の散歩道」（横浜市泉区役所）

いずみ いまむかし—泉区小史—（横浜市泉区役所）

横浜市文化財調査報告書・泉区石造物調査報告書 （横浜市教育委員会）